

やさしい建築撮影の手引き(応用編)

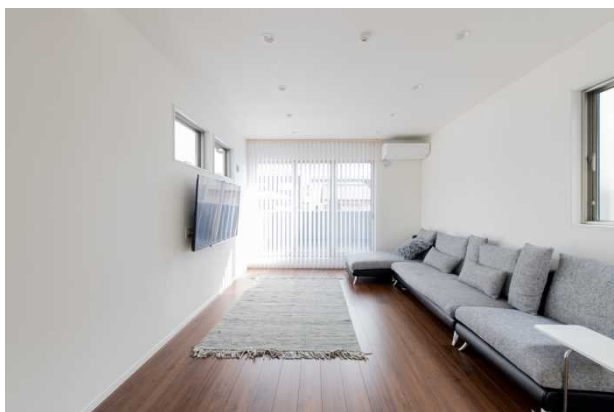
応用編：スマホでもデジカメでも、ストーリーを伝えるための3つのステップ

応用ステップ1：いろいろな方向から撮影してみましょう！

部屋は基本8方向から撮ることができます。1方向だけではなく、それぞれの方向から何を紹介したい(伝えたい)のかを意識して左右、各コーナーからも撮ってみましょう。



正面のカットだけではなく、斜めに垂直を意識して撮影すると奥行き感がでます。また、正面の写真では表現できなかったバルコニーもちゃんと写ってます。



テレビモニターとソファの位置関係を表現するには正面のカットがベストです。



アイランドキッチンと後ろのカップボードの位置関係を表現するには、斜めからのカットがベストです。

施工事例として、いかに空間そのものの魅力が伝えられるかでお客様のイメージは変わります。ただ、普通に撮影するのではなく、その写真によって伝えたい作り手としてPOINTやこだわりを一番いいアングルで撮影することが重要です。

そのためには、一つのアングルだけではなく、幾つかのアングルで撮影することをお勧めします。

応用ステップ2：お客さまの目線で、ライフスタイルがイメージしやすいお部屋の動線を撮影しましょう。

1つ1つの部屋だけでなく、図面を意識しながら家全体の生活動線がわかるように撮りましょう。



玄関から廊下、その先のリビング



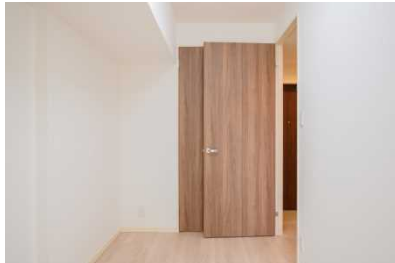
キッチンから見たリビング



窓側から見た部屋のレイアウト



部屋とキッチンのレイアウト



部屋から玄関への動線



部屋からリビングへの動線

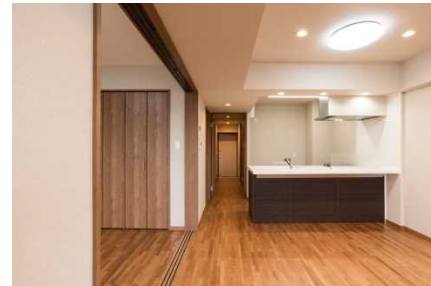
応用ステップ3：ビフォーアフター撮影で気を付けるべきこと

ビフォーアフターの撮影をする場合は、必ず同じ向き、角度の写真を撮り前後で比較できるようにしましょう。アフターの撮影をする際は、前回のリフォーム前に撮影した写真をプリントし、現場で確認しながら撮りましょう。

また、ビフォーの撮影を疎かにしがちなのですがどれだけの違いかがわかるように、いないものが写っていないのが理想です。



リフォーム前



リフォーム後

写真にストーリーを持たせることで、見ている人に伝わりやすい内容になりますね。竣工事例の写真を見た方が、自分のライフスタイルのイメージがわかりやすい写真を撮ってみましょう。写真を見て、いろいろと質問が出たり、理想の家づくりのイメージが共感できれば成功です。

以上の3ステップをベースに「伝わる」竣工写真を撮影しましょう。